



# こととい

左は先月除雪を手伝ってくれたバドミントン部。右は2013年12月の大雪後の写真です。行動力のある西春別中健児！  
別海町立西春別中学校 学校だより 第12号 令和8年2月27日発行 発行責任者 校長 綾野 正巳

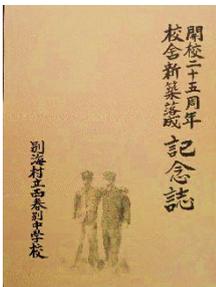
## 「開拓魂」に込められた願い

西春別中学校長 綾野 正巳

豊かで開けゆく別海町の誇り高き西春別中健児として建学の精神である「開拓魂」を基調に未来に大きく飛翔する人間を育てる。

西春別中学校が掲げてきた建学の精神「開拓魂」。これは、豊かな未来を切り拓こうとする本校の生徒に、長く受け継がれてきた大切な言葉です。令和7年度の学校教育目標「未来を拓く生徒の育成」も、この精神を基盤として掲げられてきました。

先日、古い資料の整理をしていた際、1970年発行の「開校25周年記念誌」が目にとまりました。そこには、開校当時の教師と生徒が、今では想像できないような厳しい環境の中で学校づくりに取り組んできた姿が記されていました。



第5代校長・田中治郎先生の寄稿文には、終戦後の混乱と社会の大きな変革の中、寒暑の厳しさに耐えながら、生徒も教師も一体となって歩んできた日々が綴られており、その苦勞は「筆舌に尽くし難い」と述べられていました。また、地域の方々の深い支えに触れ「涙無きにあらず」と記されている一文からは、当時の絆の強さがひしひしと伝わってきます。

こうした歴史に触れると、「開拓魂」という言葉に込められた思いがより鮮明になります。それは、困難を恐れず、自らを高め、仲間と力を合わせながら未来を切り拓いていく姿勢です。西春別の原野が酪農地帯へと発展してきた歩みも、まさにこの精神の実践だったのだと思います。

お読みに  
なりたい方は、学  
校までご連絡  
ください。お貸  
しいたします。

ICT・AIの急速な進展、国際情勢の不安定化、価値観の多様化など、未来を生きる子どもたちは予測困難な社会の中で学び、判断し、行動していかなければなりません。だからこそ、今の子どもたちにも、「開拓魂」が必要なの

ではないでしょうか。変化を前向きに受け止め、よりよい未来を自ら掴みにいく力——それは、この地に根付いてきた精神と深くつながっています。

さらに、本校は古くから「道徳教育」を大切にしてきた学校でもあります。教科化以前から研究授業に取り組んできた伝統は、全国的に見ても珍しいものです。今年度も複数回の研究授業を行いましたが、これもまた心を育む教育として、開拓魂の精神に通じる取り組みだと感じています。

西春別中学校は、あと1か月で長い歴史に幕を下ろします。

しかし、先人たちが築き上げてきた誇り高い伝統を胸に、子どもたちが強く、しなやかに、そして温かい心をもって未来へと歩いていけるよう、残された短い期間ではありますが、職員一同これまで以上に力を尽くしてまいります。